

第15号

〈西方文化祭特集号〉

発行日 令和5年3月12日
発行 栃木市西方文化協会
編集委員長 荒川 里子
印刷所 株式会社
ヨシダコーポレーション



令和四年四月十九日西方公民館において、第一回西方文化協会理事会を開催。この度の定期役員改選により、西方文化協会会長として再選されました。私は「西方の文化振興」と「とちぎ未来アシストネット事業」への参加・協力そして「魅力ある西方文化協会」を掲げ、精一杯努めさせて頂きますので宜しく願います。
さて、本年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、文化協会の研修等の行事が中止となる中、私達にとって活動の意欲と文化継承につながる大変重要な文化祭は、コロナ禍の中様々な困難に直面しましたが「安心・安全な文化祭」をモットーに、会員の皆さんが心一つに力を合わせた文化祭が開催できました。又令和二年同様カラー版のパンフレット（入場券案内含む）を作成し、西方・都賀地域限定で全戸配布し案内を行いました。
第十一回 栃木市西方文化祭
・作品展示部門
十一月十九日（土）・二十日（日）
関東ホーチキにしかた体育館ロビー及び選手控室にて展示。工夫を凝らした展示会場に、各分野の力作がはなやかに並んだ素晴らしい作品展示でした。



巻頭言

又、三年ぶりに茶道部の実演が行われ、お抹茶で心が和みました。
二十日（日）囲碁部と墨彩会による焼絵の体験コーナーがあり、親子連れで楽しむ光景にはほほえましく感じました。
・ステージ部門 十一月十九日（土）
西方中プラスバンド部による演奏で開演、フォークダンス、合唱部二団体が三年ぶりに加わり、九団体の発表が行われました。そこには、発表ができた充実感で出演者一人ひとりの顔が生々と輝いて見えました。この経験がさらなる技術向上につながる貴重な場となりました。
・記念公演 十二月二十日（日）
倉沢大樹エレクトーン&
三田喜良マリンバコンサート
第一部 エレクトーンの第一人者であり「とちぎ未来大使」である倉沢大樹さんのエレクトーン演奏。アニメ・ポップス・クラシックそして演歌と幅広い楽曲で楽しませて頂き、ソロのエンディング曲は得意とする「八木節」を迫力たっぷりに演奏。手拍子が自然におこり会場が一体化した素晴らしい演奏でした。
第二部 エレクトーンとマリンバの共演。グラナダ・トッカータとフーガ等のクラシックから船村徹メドレーの演歌まで演奏。中でもハチャトウリアン作曲の「剣の舞」は巧みなマレットさばきから、次から次へと生み出されるマリンバのリズムはあたかも「音の色彩」が感じられました。
アンコール曲は「アメリカン・パト

- 今年度の文化協会役員
〔本部役員〕
会長 荒川 里子
副会長 早乙女寿夫
副会長 和賀井公子
監事 神永 晴美
監事 石川 敦子
事務局長 中村 良一
会計 山中登喜子
庶務 金子 一男
〔理事・各専門部〕(五十音順)
理事 (アルモニカ・ハーモニ) 荒川 里子
(囲碁) 大森 明
(カップール) 田嶋 亘
(ギターアンサンブル) 小林 祥二
(Greenぐらす) 神永 晴美
(ぐりふら) 神永 晴美
(茶道) 樽見美智子
(写真) 古澤 悦夫
(月見会) 穂本 マス
(西方オカリナクラブ) 和賀井公子
(にしかた等の会) 荒川 里子
(西方ふるさと太鼓) 荒川 里子
(ハンドメイド) 赤塚 文子
(フォークダンスの会) 渡辺 勝子
(墨彩会) 早乙女寿夫
(若菜会) 若林 きく



第11回 栃木市西方文化祭記念公演

倉沢大樹 & 三田喜良コンサート

エレクトーン マリンバ

とても激しく とても優しく とても美しい演奏に
来場者全員が魅了されました



秋本番のひと時
ステージ部長 川島 博
体育館サブアリーナに、西方文化祭の看板と西方の四季を象徴するかのようなたべストリーが掲げられ、文化祭の雰囲気を感じて出している。
それらをバックに、西方中プラスバンド部による演奏で幕を開けた文化祭ステージ部門。コロナ禍で、日頃の活動は決して十分な活動ではなかった中、当日の発表は、それこそ見応え聞き応え十分で、多くの来場者を心から楽しませると同時に発表者自身も満足したにちがいない。中学生の堂々としたフランスの響き、郷愁を誘うようなハーモニカや等、オカリナ演奏、笑顔あふれるフォークダンス、フラダンス、心のハーモニが伝わってくる合唱、そして最後は西方ふるさと太鼓でフィナーレとなった。
広い栃木市全体に、この西方太鼓が響き渡り、やがてコロナ感染症も終息して、文化・芸術の灯が今以上に輝き続けることを心から祈りたい。
それらをバックに、西方中プラスバンド部による演奏で幕を開けた文化祭ステージ部門。コロナ禍で、日頃の活動は決して十分な活動ではなかった中、当日の発表は、それこそ見応え聞き応え十分で、多くの来場者を心から楽しませると同時に発表者自身も満足したにちがいない。中学生の堂々としたフランスの響き、郷愁を誘うようなハーモニカや等、オカリナ演奏、笑顔あふれるフォークダンス、フラダンス、心のハーモニが伝わってくる合唱、そして最後は西方ふるさと太鼓でフィナーレとなった。
広い栃木市全体に、この西方太鼓が響き渡り、やがてコロナ感染症も終息して、文化・芸術の灯が今以上に輝き続けることを心から祈りたい。

展示部門について
展示部長 早乙女 寿夫
昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され開催中止となりました。
令和四年度の栃木市西方文化祭の開催についても、まだまだ終息の様子は見られない中、中止や変更になっていく多くの行事が少しずつ実施されるようになりまし。
この状況を考慮し、感染防止を徹底しながら、参加を西方文化協会団体のみに縮小し、展示部門では、墨彩会、写真、月見会（華道）ハンドメイド、囲碁、若菜会（茶道）、茶道部の七団体が芸術文化を、薫り高い心豊かな魅力ある作品の鑑賞を、地域住民に満喫していただきました。関係者の皆様には大変お世話になりました。
展示部長 早乙女 寿夫
昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され開催中止となりました。
令和四年度の栃木市西方文化祭の開催についても、まだまだ終息の様子は見られない中、中止や変更になっていく多くの行事が少しずつ実施されるようになりまし。
この状況を考慮し、感染防止を徹底しながら、参加を西方文化協会団体のみに縮小し、展示部門では、墨彩会、写真、月見会（華道）ハンドメイド、囲碁、若菜会（茶道）、茶道部の七団体が芸術文化を、薫り高い心豊かな魅力ある作品の鑑賞を、地域住民に満喫していただきました。関係者の皆様には大変お世話になりました。





### 専門部活動紹介

#### 若菜会

三年ぶりのおもてなし  
 コロナ禍の中、安心安全を願いながら、三年ぶりに茶席を設えることが出来ました。

このような時にお客様が来てくださるのか心配。開始時間十時になり席が始まるとお客様が一人二人と入席、立札ですから「どうぞイスにお掛けください」と案内をする。点前座では緊張しながら一碗を点てている。その一碗をお正客様に手渡し、「いかがでございますか」「美味しい」と笑顔で答えてくれる、その笑顔を見た時に、お茶でのおもてなしが叶った瞬間でした。



また次の機会に皆様にお会い出来ることを楽しみに、私たちも笑顔で会が終了できました。

#### Greenぐら

三年ぶりに参加し、歌える事の喜びと、ピアノの響きにあわせてハーモニイが重なり合った時の感動を改めて感じました。

Greenぐらすは、今年で結成十九周年になります。これまでも文化祭や合唱祭に参加したり自主コンサートを開催したりするなど、コーラスは私達にとつて日常に潤いを与えてくれる大事なものでしたが、コロナ禍においては活動を休止せざるを得ませんでした。未曾有な事態に心細さや不安を感じる日々が続きましたが、グループラインで励まし合いながら過ごしました。活動が見通せるようになった七月から合唱祭と文化祭を目標に本格的に再開し、毎週木曜夜の一時間ではありましたが、優しくお茶目な川島敦子先生のご指導のもと、楽しく充実した練習を重ねてきました。文化祭は自分達らしく歌えたいと思います。その中の「いのちの歌」という曲に心に響く歌詞があります。「本当に大事なものは隠れて見えない。ささやかすぎる日々の中に、かけがえない喜びがある」「生まれてきたこと、育ててもらえたこと、出会ったこと、笑ったこと」その全てにありがとう。この命にありがとう。親や大切に思う人へ感謝を伝える言葉と重なって胸が熱くなり、命の大切さを



を実感し生かされていることに感謝し、大切な人達とめぐりあえたというご縁にも感謝、という想いを込めて歌わせていただきました。

最後に、この状況下で文化祭の開催にご尽力いただいた関係者の皆様に感謝致します。

#### 囲碁部

戦後、東京から囲碁のプロ棋士を呼び指導を受けて「日本棋院西方支部」を結成した。

その後、さかんに碁が打たれ、上野賀支部の大会に出場しても上位に入賞できるほど上達した。しかし、部員の



高齢化が進み、会を維持していくことが困難になった。

現在は西方を中心に都賀、壬生、鹿沼等の囲碁愛好家が集まり、西方公民館を会場に毎週金曜日に碁会を開いていた。しかし、コロナの流行により栃木市内だけの交流になってしまった。

本年度は初めて西方文化祭の実演部門に参加した。出場できた人は四名だったが人に見られても碁に集中できてよかった。一日楽しく過ごすことができた。

囲碁はルールも簡単、だれにでもできるが奥が深い。碁盤の上で自分の地(場所)を多く囲んだほうが勝ちになる。また相手の石を囲むと取ることもでき、それが自分の地になる。常に石を囲み合う戦いとなっている。

お互いに先の先まで考えて計画的に石をおいていくことから知能や思考力を伸ばすともいわれている。高齢化が進む今日、友達を多くもち充実した楽しい日々を送るため、囲碁は良い趣味だと考える。

#### 西方町フォークダンスの会

コロナ禍で開催された文化祭。手を取り、身体も触れ合うフォークダンス、感染対策は大切でした。

二十七年の歴史を持つ西方町フォークダンスは、世代交代が進み、観客の前での演技は多くの方が初めてのため「緊張を和らげ、楽しく踊るには？」が問題でした。知恵を結集して曲順とパートナーを決めると、少しずつ軌道にのってきました。

①曲目は「山小舎の灯」昔懐かしい曲で、ムードが和らげました。

②曲目は、「芭蕉布」朝ドラの「ちむどん」沖縄舞台の名曲で、私達の指導者、安生忠男先生の振り付けたダンスです。初心者には難しく、どうなるか心配でしたが、本番に強い私たちが見事だったと思います。

③曲目は「青い山脈」これも懐かしい曲で、ルンルンで踊りました。

④曲目は「ひまわりワルツ」ロシアの侵攻に苦しむウクライナへの支援の思いを込めました。両手にウクライナの国旗の色、青と黄色の色



#### 茶道部

##### コロナ禍の茶会

コロナ禍により、二年間西方町文化祭は開催できず、令和四年、三年振りに茶席が掛けられました。

水屋では念入りに感染対策を心掛け、お菓子は個包装の物を用意し、お茶碗はお盆にのせて、お客様に直接とっていただきました。

水屋に消毒液を置き、手指消毒の他、茶碗も念入りに清め準備をしました。

この様な形のお茶会でも、久しぶりにお抹茶がいただけたと、お客様から「美味しい」との声を掛けてもらい、ホッとしました。



本来お茶会の濃茶では一つの茶碗を

#### カッパーコール

男子たるもの、心の奥底でいつも、「ギムタクのようにになりたい」とか、そこまでは高望みであつても、せめて「チャホヤされたい」と、常々願っているものだ。齢六十を過ぎてもなお、この熱き思いは枯れはしない。

ではどうするか。どうすればチャホヤしてもらえるだろうか。その答えとして私たちが選んだのが男声合唱、男声コーラスなのだ。

男声合唱はカッコいい。この点に關しては異論のないものと思

うが、男声合唱を選んだ男たちが皆カッコいいとは断定できない。断定はできないが、カッコよくありたいと願っていることは確かだ。だからこそ、地味な



#### 西方中学校ブラスバンド部

練習にも熱が入る。

歌えないことの辛さを知って、歌えることの喜びを噛みしめつつ、今日も我々は、チャホヤしていただけるように、日々合唱その他諸々の研鑽に励み続けるのである。

コロナ禍の中、思うような練習ができず、十月には三年生が引退し九名となった部員で、地道に努力を続けてきました。一人一人が大きな音を出すことを意識し、練習を重ねてきた成果を、見事に発表してくれました。

演奏曲は「ブループリント」「男の勲章」「RAIN」など五曲です。「レ・ミゼラブルメドレー」では、映画のシーンが蘇る、引き込まれるような素敵な演奏になりました。九人の息の合った演奏に多くの人が感動していました。

